

理窓教育会報

第37号

平成23年4月1日

東京理科大学理窓教育会

事務局 大学会館 PORTA 神楽坂7階

巻頭言『図書館を充実させよう』

東京理科大学学長 藤嶋 昭

私は川崎市の教育委員を3年前まで10年近くつとめました。この間、教科書採択や3学期制から2学期制への変更など、真剣に教育委員会では討論し、多数の傍聴人の前での白熱する議論のあと議決したこともありました。人口140万人の政令都市川崎市の200校近い小学校や中学校、そして高校のうち、かなりの学校を訪ね、また授業などもさせてもらいました。3年前からは、理科教育アドバイザーというポストを作ってもらい、先生方への特別講義や年間4~5校での出前授業も続けています。

教育委員をつとめていた期間中、8月には新任教員採用試験の面接にも立ち会いました。10人ほどの集団面接の折に、私が質問したことは、この1年間に読んで感動した本は何ですかとの問いでした。おどろいたことに誰一人として答えられませんでした。先生になろうとする人が、本を読んでいない！！私のおどろきでした。

だから今、私はわが理科大生に良い本を沢山読んでほしいとのキャンペーンを始めています。

では、どんな本を読めばよいのか。例えば次のようなガイドブックがあります。

- 1) 「人生に二度読む本」
(城山三郎・平岩外四／講談社)
- 2) もう一度読みたかった本
(柳田邦男／平凡社)

- 3) 大人のための世界の名著必読書50
(木原武一／海竜社)
- 4) ぼくらの頭脳の鍛え方
(立花隆・佐藤優／文春新書)
- 5) 読書力(齋藤孝／岩波新書)
- 6) 多読術(松岡正剛／ちくまプリマー新書)

各キャンパスの図書館には、学長推薦図書コーナーを作ってもらっています。また、森戸記念館の1階の談話室には、「坊ちゃんとマドンナちゃんのこどもえほん館」をオープンしました。さらにこの4月からは、新装される神楽坂キャンパス8号館の地下の学生談話室に、新書図書館をオープンする予定です。集めることができる数千冊の新書が、壁一面に作った書棚につまっている光景は壮観だと思っています。この新書図書館は塚本理事長と二人で本代を出し合おうと相談してできたものです。

野田キャンパスや久喜キャンパスの図書館も沢山の学生諸君が利用してくれていますし、長万部キャンパスの図書の充実ぶりはみごとです。しかし、全学的にはさらに図書館を充実させていきたいと思っています。

理窓会の方々もぜひ大学の図書館を利用し、いろいろの御要望を出していただけると幸いです。

「酒井会長のご逝去を悼む」

理窓教育会東京支部
前支部長 廣瀬和昭



理窓教育会会長の酒井洋先生が、平成22年10月30日午前5時55分、悪性リンパ腫により入院加療中のところ、享年76歳にてご逝去されました。私にはあまりにも突然届いた朝方の訃報であり、お別

れには余りにも早すぎて残念でなりません。

葬儀・告別式は11月4日に東京女子学院隣地の法耀山本立寺にて酒井家・東京女子学院合同葬で執り行われました。先生のすばらしいお人柄や偉大な業績、私が先生を知るすべては日本の教育発展のために努力されてこられました人生だったと感じています。

酒井先生は昭和9年4月23日に東京都目黒区駒場にお生まれになりました。昭和33年東京理科大学理学部一部化学科を卒業、昭和36年3月に大学院修士課程修了。学部卒業と同時に理科の教諭として、東京女子学院中高の教壇で先生の第一歩が始まりました。昭和49年に学校法人東京女子学院中学・高等学校校長、58年に理事長に就任されました。「健全な社会を構成する基礎は健全な家庭があり、その家庭をつくるものは良き母である」という東京女子学院創立者の父君であります酒井堯先生の教えを守り育て凛とした女子教育の創立理念の基で東京女子学院を発展させていきました。先生は常に「私学には建学の精神がある」のでそれを大切に教育しなければいけない、とおっしゃっておいりました。先生は数多くのご要職に就いておいりました。自分の学校が窮地の時でも日本の教育を何とかしなければと東奔西走しておいりました。東京

私立中学高等学校協会の重職に永年就かれておいりました。しかも協会会長を十二年なされ、財団法人東京都私学財団理事長に七年間就かれておいりました。

このようなお立場でありながら、偉ぶることもなく、常に笑顔で穏やかにお話をしてくださいました。駆け出しの教員には、上手な授業をするための心構え、話の間のとり方、教員としての研修の仕方などをよく話しておいりました。政治家や企業人には政治の問題点と教育の改善点について熱く意見を語っておいりました。同窓生には大学を発展させるための何が大切かを淡々とお話されておいりました。常に変わらない教育に対する姿勢と価値観を知るにつれ、今は亡き先生の偉大さを感じます。

私は大学四年生の時、理科大の先輩とは知らずに教育論をしたための論文を女子学院の校長室に届けた時に、副校長の酒井洋先生は校長である酒井堯先生にお目通ししてくださいました。そして、私の論文を預かっておくよとおっしゃって受け取ってくださいました。これが酒井洋先生とのはじめの出会いでした。温かく包み込む穏やかなお姿を昨日のように覚えています。

これがご縁で私の教員人生が始まります。先生がこれまで数え切れない教え子たちを愛情込めて社会に送り出してきました。学校で送り出す立場にある教員も数多く育ててきました。わたしも先生から育てられた教員の一人です。酒井先生の思いに応えるべく、私の残りの人生を、先生がここまで発展させてこられた理窓教育会を支えていくことをお誓いいたします。安らかにお休みください。 合掌

「会長就任にあたって」

理窓教育会会長 富岡康夫

平成22年10月30日、理窓教育会会長酒井洋先生がご逝去されました。先生は、昭和33年3月に理学部一部化学科を卒業し、教育の道一筋に歩まれ、皆様ご存じのよう

に理窓教育会の会長として本会の発展に大変ご尽力されました。文字通り「巨星落つ」の感であります。我が国の教育界、特に私学関係の会長をはじめ様々な役職を歴任され、大きな足跡を残した本学が誇れる先生でした。ここに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

12月3日、急遽理窓教育会の役員会が開催され、本年度理窓教育会東京支部長を仰せつかっていました私がお後の大役を仰せつかりました。もとより、浅学非才の身であります。皆様のお力添えで、この大役を果たす覚悟でございます。どうかよろしくお願い致します。

さて、資源のない中で我が国が生きる道は、科学技術創造立国であると国を挙げて取り組んでいる中で、教育については、理数重視が叫ばれ、様々な施策を国が実施しています。もとより本学では、創立以来建学の精神である「理学の普及は、国運の基」を柱に発展してきました。理窓教育会は、これらのことを側面的に支援し、伝統的に学校現場の同窓の先生方を中心に活動してきました。

具体的には、本学から中学・高等学校の先生を増やすための様々なお手伝い、必要な研修、管理職試験の対応、また、最近では本学入学予定者の事前指導、坊っちゃん科学賞の企画立案実施の裏方等です。今回、教員採用試験合格者の激励会を3月5日（土）に開催致しました。団塊の世代の大量退職を迎えて、各大学が力を入れている所です。やはり伝統の力は強く、教職課程指導室の指導と相まって多くの合格者を出すことが出来ました。これに安住することなく力を入れて側面からの支援を致したいと思っています。

私自身、全国の理科教育に携わった経験を生かしたいと思います。そこでこの紙面をお願いします。本学出身の先生方の横のつながりを強化するために完成度の高い名簿を作成したいと考えます。是非、理窓教育会の事務局へお気軽に連絡をください。ま

た、先程述べました坊っちゃん科学賞は理窓会の主催で実施しております。今年度は3回目になり、内容も高度になり多くの波及効果があります。教員同士の交流にもつなげたいと考えます。生徒の指導を含めて関係の先生方には応募を勧めてください。

最後に、理窓教育会の益々の発展を目指すために様々なご提案お待ちしております。よろしくお祈りいたします。

支 部 報 告

北海道支部総会報告

支部長（51S）松本徳幸

北海道支部総会は、平成22年9月4日（土）午後6時から札幌市の毎日札幌会館で開催しました。

会員の出席は10名でした。ここ数年出席者が減少してきているのを大変心配しております。総会では支部長の挨拶のあと、佐藤文彦支部幹事長より北海道支部の状況説明があり、その後の役員改選では、次年度も現役員が留任することが承認されました。そして、支部総会の出席者を増やすためのいろいろな方策や、活動内容等について貴重な意見が多く出されました。次年度以降は出席者が増えていくものと期待しております。

総会後の同会場にての懇親会では、出席者一人ひとりが自己紹介を兼ねて現在の様子を話されました。現職の教員、管理職もいれば、退職後時間講師で生き活きと活躍をされている会員もおり大変和やかな雰囲気でした。現職の教員にとっては、退職後の生き方について大変に参考になる話ばかりで有意義な懇親会でした。

今後、同窓生の北海道教員の採用が増えるようなサポートや教育現場に役立つ研修会などの企画も検討していきたいと考えております。そして、次年度以降も、現在よりも出席者を増やして、この会がますます盛んになることを願っております。

秋田支部総会報告

支部長 (45S)佐藤 幹彦

本年度の総会も理窓会秋田支部と共催で、平成22年10月23日(土)午後3時から秋田市の『イヤタカ』で開催しました。参加者は24名でした。東京理科大学から村田雄司常務理事、理窓会から増渕忠行常務委員、こうよう会から菅原真秋田支部長を来賓としてお迎えし、理窓会秋田支部総会に引き続いて理窓教育会秋田支部総会を開催しました。総会の後『東京理科大学と理窓会の現状について』村田、増渕両先生からご講話をいただきました。

また、恒例の理科大OBによる講演会も行いました。秋田大学教育文化学部特任教授の神居隆先生(S52理工・数)に『秋田県の教育事情』についてご講話をいただきました。神居先生は昨年まで、秋田県教育次長に就いておりましたので、豊富な情報と経験をもとに、本件の抱える喫緊の課題や学力向上を推進する4事業(算数・数学学力向上推進事業、理科支援員等派遣事業など)など様々な事業について資料を用いて、丁寧にお話いただきました。

理窓教育会の総会では、総会向けに作成した『教育会報第3号』をもとに、「会報の発行について」「規約の改正について」「本部の総会から」の3点について課題等をお話しました。

支部会費を徴収していないので、予算は無いのですが、三浦優理窓会秋田支部長のご支援を受けながら、本部とのパイプ役や会報の発行などの仕事を続けてまいりたいと思います。

以前は、ちよくちよく秋田に来られた松尾吉知先生から、不肖の弟子の私は「佐藤君、教育会を頼む」とよく言われておりました。私がこの仕事をしているのは、このときの松尾先生との約束を果たそうとしているのかもしれない。

今年度は、東北地区副会長に推薦されましたので、そのことで何ができるのかも考

えたいと思います。こちらの任期は3年ですが、秋田支部長としての任期はあと1年です。よい形で引き継ぎができるように努めたいと思っています。

宮城支部総会報告

支部長 (18S)平塚正好

平成22年度総会は平成22年6月19日(土)12時より仙台市青葉区ホテル白萩にて開催、来賓として理窓会宮城支部長佐々木勇三郎氏(34B)、会員6名(現職2名OB4名)計7名出席、事業報告は平塚正好より、教育会本部よりの連絡事項特に会費納入のお願い、新学長藤嶋昭学長の紹介、会報35号の内容等の報告がなされた。会計報告は高橋康之(41K)より繰越金45,740円と報告された。監査報告は狩野克範(35S)より公正妥当と報告。名簿確認は公立高校34名、私立中高5名、公立小中16名計55名不明者11名と確認した。

今後の支部活動は総会出席率向上、本部会費と教育会支部会費の納入率向上が挙げられた。近況報告、閉会宣言が高橋康夫氏により行われ総会は終了した。引き続き懇親会が和気藹藹として行われ午後3時に一切を終了した。

今後の課題として本部会費納入率向上として、1回でも会費納入した会員には会報を先送りし、会費納入振替で加入をお願いする。

私見ですが、同窓会的な会合ほどリラックスができると思うし、多彩な知識人と出会い勉強になることが多いと信じている。目先のリスクの大小を考えず教育会支部総会にも出席してみたいと思います。

最後に理窓会宮城支部長佐々木勇三郎氏には毎回教育会支部総会にご出席を賜り、本会をご支援いただき誠に有難うございます。支部長は平成22年総会役員改選で退任されました。

茨城支部総会報告

支部長 (46B) 小林 康則

平成 22 年度の理窓教育会茨城支部総会は、残念ながら諸般の事情で開催されませんでした。9 月に行われた役員会で検討された、諸般の事情とは主に次の 2 点です。

ほぼ底をついた諸経費（主に総会案内状の郵送費）をどのように賄うか方針が定まらない。

総会案内を教育関係者全員（約 300 名）に送付するか、一部（年会費納入者（10 名前後））にするか結論が出ていない。

また、役員会では次回の総会開催に向けて次のようなことも検討されました。

全員に総会案内状を出すのは、年会費を納入している会員にのみ負担を強いることになるので改善したい。については次回の総会案内の折に案内状送付の希望有無についてアンケートをとり、希望しない会員には以後案内を送付しない。（送付を希望しない会員がかなり多いのではないかという不安があるが）

総会案内にメールを活用し、経費を抑える。そのためにメールアドレスを蒐集する。

会場費を節約する上でも、大子の研修センターを活用する。

多くの会員に参加してもらえるよう、総会を魅力あるものにする。

・・・いずれも簡単なことではありませんし結論の出ていないものもありますが、少しずつでも改善できればと考えています。

埼玉支部総会報告

支部長 (55 修K) 金子 和人

長年にわたり理窓教育会会長としてご尽力いただきました酒井洋先生がご逝去されましたことに対し心よりご冥福をお祈り申し上げます。

さて、平成 22 年度埼玉支部総会は、新たに理窓教育会会長に就任されました富岡康夫先生をお迎えし、参加者 17 名で平成 22 年 12 月 4 日（土）に行われました。上

尾市内の東武バンケットホールを会場に、総会においては、埼玉支部会長挨拶の後、役員改選、平成 22 年度事業計画及び会計報告、平成 23 年度事業計画及び予算案等が提案され承認されました。事業計画では、参加者の増加に向けた工夫や理総会埼玉支部総会への出席等が話し合われました。総会後は、同窓生である麻布大学、生命・環境科学部環境科学科、環境リスク学研究室の後藤純雄教授より「空気浮遊粒子と健康」について、講演を頂きました。発がん関連物質などの健康影響物質や不快な悪臭物質などに注目し、それらの高感度測定方法の作成、発生源対策などに関する研究や一般家庭内や学校内など様々な空間内の微量化学物質と健康についてご教示いただきました。空気中の微粒化学物質について最先端の研究分野の話題を教育現場に持ち帰ることの出来た参加者が多くいたものと確信しております。

講演会後の懇親会では、各参加者の自己紹介や近況報告、各学校の現状や理数教育の在り方等の情報交換もあり有意義な会となりました。毎年恒例の円陣を組んでの理科大校歌合唱は、時間の都合で今年度は行いませんでしたが、懇親会により同窓・同志の一体感の醸成、参加教員相互の連帯強化となりました。時のたつのも忘れて進行了した会も母校の益々の発展と次回の総会での再会を確認し、盛況のうちに閉会となりました。

最後に、本支部の課題として、会員数の確保と理数科教員としての教育力向上のための研修会・講演会の実施が挙げられます。若手教員を支援できる活力のある支部活動であるよう、私立高校の同窓生も含め、各学校で活躍している同窓生の掘り起こしを行い、魅力ある活動を創成していくことが急務と考えています。他の支部との情報交換を進め、求められる支部活動を築けることを願って、支部報告とさせていただきます。

東京支部総会報告

前支部長 (49 専 S) 廣瀬 和昭

平成22年度の東京理科大学理窓教育会東京支部定期総会は5月23日(日)午前11時30分より、理科大学神楽坂校舎1号館3階133教室で行われた。昨年度と同様に今年度も理窓会東京支部総会が開催される同日に本会総会を開催することとなった。寒い小雨模様の天候にも関わらず多数の先生方が参加された。近年、教職に就いている先生は休日も業務が多忙のご時世となり総会日程を決定するのにはいつも苦慮している。管理職は平日の夜も業務が遅くまであり、時間がとれないようになってきた。そのため、今年度も理窓会東京支部と共催して開催する日程で決着した。

総会は竹村精治高校部会部長の司会で始まった。酒井淳理窓教育会会長は病氣療養のため欠席された。欠席した酒井会長のご容態について亀田先生より説明があった。悪性リンパ腫で杏林大学病院で治療に専念している。お元気なので回復されるのを待ちたいとの話だった。次に東京支部長の廣瀬より挨拶があり、理科大学を今春卒業して教員になった状況の説明があった。数学と理科は公立私立ともに順調な教職決定状況であった。教職決定状況がいいことの反面心配もある。保護者の変化が近年激しく、子供の親とは思えない自己中心的な保護者(モンスターペアレンツ)としっかり対面できる社会性を身に付けた教員になって欲しいとの話だった。

つぎに報告および議事に入り、運営委員会の各部会や各委員会から平成21年度活動報告があった。特に坂本功指導委員委員長より教員志望の学生の現状説明があり、また全国組織の状況などの報告があった。

平成22年度の活動方針案の発表に引き続き、2年ごとに行われる役員改選について廣瀬より説明をした。「平成22・23年度役員」については任期満了の廣瀬和昭支部長が退任し、富岡康夫先生が東京支部長とし

て満場一致で専任された。富岡新会長は挨拶に立ち、皆様との縁を大切に会の発展のために努力していきますとのご挨拶があった。すでに運営委員会において、審議している原案が承認された。松原担当理事より10月31日(日)に実施予定の「第5回ホームカミングデー」には多くの会員が結集するように、呼びかけがあった。富岡新会長から「第2回坊ちゃん科学賞」について多くの先生方に投稿するようなお話があった。

本会総会終了後、理窓会東京支部総会と合流し、山田理窓会会長や森野維持会会長の挨拶の後、1月に就任した東京理科大学学長藤嶋昭先生の講演があった。「良い雰囲気のもとで感動しつつ」と題する光触媒研究のお話をお聴きした。小さい頃からの興味や関心は感動を育み大きな夢を与えてくれるという教育に携わる先生方には感動的な話だった。

懇親会は有意義で和やかに進行し、中締め挨拶を廣瀬が行い充実した総会は名残惜しい雰囲気終了した。

千葉支部総会報告

支部長 (40S) 水野 澄

平成22年8月22日(日)13時～

千葉市ポートプラザちば 66名

主催者 水野 澄 支部長(40理・数)

理窓会および理科大学から、山田義幸・理窓会長、澤 芳昭・理科大常務理事、森野義男・理科大維持会長、並木榮一・理窓会代議員、鈴木幹久・神奈川支部長、高野正幸・埼玉支部長、島崎益男・東京支部副支部長をお迎えし、今年も、教職員部会総会に続き、千葉支部総会という形式で開催されました。

【教職員部会総会】

出された議案はすべて承認され、眞田孝則(元検見川高校長50理・化)に替わり宮崎仁志新会長(千葉女子高校長49理・化)が就任しました。

【千葉支部総会】

挨拶の中で、山田理窓会長、澤常務理事から、「理大の現状」、「神楽坂キャンパスの再構築や金町キャンパスの構想」について、森野維持会長から、「維持会・創立125周年記念募金」についてのお話をそれぞれ伺うことができました。

【記念講演会】

今年は、科学ジャーナリストの瀧澤美奈子先生を講師にお招きしに、「環境と共に、私たちはどこへ向かうのか」という演題で約90分のご講演をいただきました。理科大学物理学科を卒業してから「宇宙論」を学ぶためにお茶の水女子大に進み、大手会社勤めを経て出版デビューを果たすまでの経緯。科学ジャーナリストの役割の一つとして、科学の面白さを伝えることが大切であることを強調されていました。また、有人潜水調査船「しんかい6500」に乗船した体験談は大変興味深い内容でした。これまでに、多くの恩人から受けた言葉の中で、理大の恩師から「君、人生は漂流でいいんだよ」と励まされたというお話が大変心を打たれました。

【懇親会】

来賓を代表して、島崎益男理窓会東京支部副支部長からご挨拶をいただき、終始和やかな雰囲気では進みました。最後は参加者全員で円陣を組み、校歌で締め括り、同窓の絆がさらに深まる有意義な時間となりました。

神奈川支部総会報告

支部長 (41B) 鈴木 宏司

理窓教育会神奈川支部総会は、理窓会神奈川支部定期総会と兼ねて行うのが恒例になっている。平成22年度支部定期総会は、平成22年7月10日(土)、日産横浜倶楽部にて開催し、参加者は来賓の方等を含めて64名という盛会なものであった。

総会は塚本理事長、森野維持会会長、山田理窓会会長からご挨拶があった後、議事に入り、21年度事業報告、収支決算報告、そして22年度事業計画案、収支予算案、新

役員人事案が滞りなく承認された。

議事終了後、フリーアナウンサーの良藤有三氏による「心の健康と音楽活用法」という題目の講演会を開催した。音楽が人の心のみならず、植物の心をも落ち着かせること、また医療現場における音楽療法として効果を上げている事例などが紹介された。そして、持参された「ウッドコーンスピーカー」による、生演奏を聞いているような広がりのある澄んだ音に全員が聴き入った。

その後懇親会に入り、まず、藤嶋学長より、熱情溢れるお話があり、一気に盛り上がったところで乾杯、懇談に入った。この間、桂歌助師匠(62年数学科卒)が飛び入りで司会を行い、さすがプロと言われる巧みな話術で会場を盛り上げた。最後は全員で校歌を合唱し、お互いの再会を約しながらの解散となった。

総会報告は以上ですが、いつも併せて報告している「神楽会」(県立高校の管理職の会)の方も、年2回の集いが無事に終了致しました。

最後に、この神奈川支部を強力に牽引して下さった、今は亡き故田村應和先生(理窓会副会長、元神奈川支部長)のご冥福を心よりお祈り申し上げたいと存じます。

山梨支部総会報告

事務局 (53B) 橋田 多喜夫

山梨県支部総会は、毎年理窓会山梨県支部総会と合同で開催している。本年度は平成22年9月25日(土)16時から甲府市「ニュー芙蓉」で、15人の参加者のもとで開催された。本年度、支部長が交代し、武藤廣先生から八巻勇三先生に引き継がれた。来賓として、理窓会事務局長山下正先生、諏訪東京理科大学システム工学部機械システム工学科教授須川修身先生をお迎えした。また、今回初めて「こうよう会山梨県支部」の参加があり、支部長保坂弘子様、窪田一仁様が出席された。

今回は総会に先立ち講演会を開催した。

講師は昭和53年工学部建築学科卒の(株)馬場設計事務所社長奥村一利氏。「甲府駅周辺の開発」の演題で甲府駅北口の開発計画について講演された。県都甲府の今後の発展と将来像を知ることができた。

山下先生からは、5か年計画を終えて理窓会の当面の課題と長期の目標をお聞きした。須川先生からは諏訪東京理科大学の現況について詳しいお話があり、発展の様子を知った。山梨からも多くの高校生を送って欲しいとの要望があった。

八巻新支部長からは6月に開催された支部長会議やこうよう会山梨県支部との交流の報告があった。こうよう会では就職活動への協力や卒業後本県に戻って支部発展につなげることを要望されたとのことである。

懇親会では現役教員から県内高校教育事情を聞くこともでき、充実した時間を過ごした。来年度も今回のように同窓生による講演会を開催して、理窓会・教育会両支部の課題である若手の参加を図りたい。

静岡支部総会報告

支部長 (55 修業)樋口 和男

本県は支部会員 37 名(義務関係 16 名、高校関係 21 名)で活動をしている。平成 22 年度支部総会は 1 月 22 日(土)に初参加の会員も含め 17 名の参加のもと、県東部の三島市で開催された。

＝当日議事等の報告＝

○事務局について

前支部長が事務局を運営しているが、その負担の軽減が検討され次年度は中部の小田(清水飯田東小)校長と東部の樋口(沼津西高)校長二名が事務局を補佐し会の充実を図ることとした。

○本部会費の納入方法について

次年度は会員の利便性を図るため通常の本部への個人納入に加え、本会参加者は次年度会費を一括納入する方法も併用することとした。

○会員からの報告・情報交換

県理窓会の三地区の現状報告があり、中部地区から企業と連携して運営を進めた結果、若手会員の増加に繋がっているとの報告があった。若手会員だけでなく教育と企業を繋ぐものとして注目したい内容であった。

また、現役管理職より勤務校の様々な教育実践の報告があり、義務教育と高校の良き情報交換の時間が持て本会の重要性が再確認された時間でもあった。

○懇親

飯田橋キャンパスや野田キャンパスの思い出、特に神楽坂や柏など大学時代に通った店のことなど当時を思い出して懐かしい話に花が咲き、楽しい時間を過ごすことができた。

「大学との連携」

坊っちゃん科学賞
(高校生部門)について
(48B) 菅井 悟

高校生の科学への興味関心を高めるため、理科大と理窓会が共催し、全国の高校生を対象とする研究論文発表の場として設けられた「坊っちゃん科学賞」は第2回目を迎えました。今年度は、全国理数科設置高校やスーパー・サイエンス・ハイスクール指定高校、首都圏内8県、長野・山口県、その他理窓教育会推薦の学校などあわせて、全国1700校に参加を呼びかけた結果、13都道府県から、個人研究15件、共同研究32件の応募がありました。分野別では物理7、化学12、生物12、地学8、数学情報等6、その他2で、参加生徒総数は157名でした。9月11日には、理窓会並びに理窓教育会の協力を得て、論文審査が行われ優秀論文候補が選定され、その後、大学関係委員による全体審査により、優秀賞5編、入賞8編、佳作19編が決定しました。

ホームカミングデー当日には、優秀賞受賞者による発表会が行われました。15分間

の発表・プレゼンテーション、質疑応答を経て、最優秀賞に輝いたのは、「仮想水滴による虹の研究」を発表した神奈川県多摩高校の柴田翠さんでした。秋山仁審査委員長の講評の後、藤嶋昭東京理科大学学長より、記念の盾と副賞が贈られました。

当日発表のあった優秀賞4件は、◇「川の水質と人間活動の関係性」名古屋市立向陽高校地学班、◇「酵母におけるキラ現象の観察」茨城県立水戸第二高校 柴田奈々、◇「自給率向上資料と福祉型ゲージによる新養鶏システムの開発に関する研究」岡山県高松農業高校 畜産科学科、◇「検出反応を高める」～ニンヒドリン反応とビウレット反応の反応機構と食品中のタンパク質、アミノ酸の定量に関する研究～ 福岡県鞍手高校科学部でした。

講評にあったように、今回は、研究テーマ設定の的確さ、研究の進め方や方向の明確化、理論的考察やモデル実験の確かさなど、しっかりとした研究が多く、発表もパワーポイントを使ったわかりやすい説明がなされていました。

理科離れが指摘されるなか、「坊ちゃん科学賞」を開催し、興味関心を高め、知的好奇心を育て、理科や数学の大好きな高校生を育てることは、未来の科学技術を担う高校生たちへの支援となり、建学の精神「理学の普及」に合致するものです。今後ますますの充実・発展させていくためには、理窓会や理窓教育会の皆さんの協力は不可欠です。今後ともご支援・ご協力をお願い申し上げます。

新規採用教員・管理職選考合格者・退職者激励会について

(45B) 松原秀成

平成23年3月5日(土)理窓教育会東京支部の主催の教員採用試験合格者・管理職選考合格者・教員退職者激励会を理窓会館3階第1会議室にて開催された。

ご来賓は東京理科大学常務理事、渡辺恒夫様をはじめ、理窓会常務委員の水野澄様、

東京理科大学こうよう会会長の船木真左美様、大学側から教職支援センター神楽坂地区センター長の眞田克典先生のご来賓4名、現職・OB教員、今年度の教員退職者、管理職試験に合格された会員等の出席者70数名が出席して盛大に行われた。また、新規採用教員予定者は、154名の合格者全員を招待し、そのうち35名が出席した。

松原秀成理事の司会で会は始まった。會田良三理事の開会の挨拶に続き、来賓としてご出席の塚本桓世理事長代理渡辺恒夫教授のご挨拶があった。教育現場では理科大の先輩達が大勢活躍されているお話や教師が生徒の信頼を勝ち取るには真剣に立ち向かう情熱であると話された。理窓会常務委員の水野澄先生からは理窓会の活動についてのお話や生徒にとってのよい教師とは、生徒の学習意欲を高められるために好奇心を与えられる授業力を付けて欲しいというお話しがありました。教職課程指導室の坂本功先生の合格状況の説明の後、合格者を代表して、東京都公立学校数学に合格している坂本江未さんが、感謝の意と教職活動をしていくための決意表明を力強く宣誓されました。

次に教育管理職選考試験合格者を武内愛樹町田市立金井中学校長より紹介。管理職選考の選考方法が以前と異なってきたので、変化に対応する対策が必要だとの話があった。最後に退職者を代表され東京都立工芸高校校長の瀧上文雄先生からご挨拶をいただきました。閉会の挨拶を小久保正己理事が述べた。

引き続き、榎本成己理事の司会で懇親会にはいりました。ご来賓としてご出席の教職支援センター神楽坂地区センター長眞田克典教授と東京理科大学こうよう会会長の船木真左美様から励ましのご挨拶をいただいた。元気な教師の卵の諸君からは自己紹介と教師としての熱い抱負が述べられ、和やかな雰囲気の下、同窓としての先輩・後輩の絆を深めつつ散会した。

入学前学習支援事業への協力 入試センター入試課(44S) 澁谷重雄

昨年と同じく入学前学習支援事業は、主に推薦入学生を対象に、数学、物理、化学、生物、国語、英語の各教科で課題3回分を受講生に与え、問題を解かせ提出させています。このうち教育会の先生方には、数学、物理、化学のハイレベルコース答案の添削指導をお願いしております。

今年度も受講生が数学337名、物理239名、化学186名があり、添削をお願いしています。先生方は、受講生一人ひとりの答案をていねいに見て、添削しておりますので、受講生は返却された答案で、間違えた箇所を再度解き直し、入学までには、基礎学力を十分身に付けてほしい。そして、入学生の学力向上を切に願う教育会先生方の熱い思いを十分に受け止めてほしいと考えます。

なお、この事業は入試センター入試課が業務を担当し、理窓教育会の先生方の協力を得て実施しております。この事業も今年で5年目となります。今回をもちまして、入試課が担当しておりました入学前学習支援事業は終了いたします。添削指導に携わり、ご協力いただいた教育会の先生方、ほんとうにありがとうございました。

同窓の活躍

全国高等学校 NIE 研究会会長 に就任して

(50B) 小岩利夫

1. NIE の誕生

NIE といえば、最近ではほとんどの先生方に分かって頂けますが、数年前までは「ニって何なの」？とか、NEWと読み違えて、「何が新しいの」といったことを聞かれることが多くありました。特に公立学校の教頭先生や校長先生が中心に作っていた

研究会でしたから、私立学校の先生方には、中々活動を理解していただくことが出来ないう状況でした。元々は、壁新聞やスクラップブックといったものが教育現場にある中、新聞に関する研究をする実践校が求められて集まり、研究発表をすることから始まったものです。

2003年からは総合的な学習の時間が設けられるようになると、全国各地でこの研究発表が盛んになりました。

東京では、東京都 NIE 推進協議会が設置され、会をまとめていた上原勉先生(元田無高等学校校長)が、小学校中学校と分けて全国的な高等学校の NIE 研究会として設立したものが現在まで続いているのです。

2. 高等学校としての NIE 研究

差別化の進んだ社会が学校にも押し寄せ、いわゆる学力の低い生徒が集まっている高校では、授業についてこれられない生徒が増えています。教科書を開いたこともない生徒が少なくない状況で、ある程度の学力を求めるには、大変な苦勞が教師に求められている現状があります。

今年の研究会で公開授業実践をする神奈川県立愛川高等学校の星野智先生は、長年に渡って、新聞記事の内容を使って教材を作り、生徒の読解力や語彙力を高め、着実に学力をつけ実績を残してきています。

新聞に関する単なる読み書きだけでなく、ニュースの扱い方が、それぞれの新聞社によって違っていることや、写真1枚でもとらえる観点が違っていることなど様々な研究が発表されています。

生徒が興味を示すニュースやスポーツ欄・コラムなど、新聞には貴重な教材が新鮮な形で溢れていますから、高等学校 NIE 研究会としてのテーマは無限です。ただ、長年にわたって引き継いでいるのは、次の4点です。

- 新聞が読める高校生を育てる
- 授業の活性化に新聞を利用する
- 新聞活用で多様化する大学入試に対応する

○会員相互の研鑽と交流をはかる

3. 求められる取り組み

現在、東京の私立八王子高等学校において、来年4月を開校予定として中学校の設立に関して、室長という立場で働いています。元々、八王子高校は、80年以上の歴史を持つ学校ですが、10年ほど前に、多様なコース制を設定することで受験生を増やし、進路実績も高めている学校です。少子化と不況の波が押し寄せる中、現状を維持していくだけで十分と考えられるのですが、私立学校としての建学の精神にある人格教育を実践することの大切さと、芯の太い人間を育てたいという思いが重なっての中学校設立となっています。

私は昨年3月で、明治大学附属中野八王子中学高等学校の教頭を定年で退職いたしました。それから就いた新しい仕事ですが、新しいものを創る喜びと苦勞が、日々身にしみています。このようなチャンスを与えていただいたことに感謝しつつ、全力で取り組む毎日です。

さて、教職は、公立学校に就職すると、何年か後に異動を余儀なくされますが、反面外の空気を吸いやすい環境にあり、多くのことを学べるのです。

私立学校の場合は、一般に異動が少ないために、自分から求めて活動しなければ、周りが見えてこない事が多くなります。このため、部活動の顧問として大会会場に出でいたり、色々な教育研究会に参加したりすることがとても有意義です。そうした機会を利用して、他校の先生方と積極的に話したりすると、多くの情報が得られ、自然と力が湧いてくるものです。

教職は一人でする仕事が多いでしょうが、卒業した後、理窓教育会という全国的な繋がりの中で、新たな同窓生にひと声かけるのも楽しいものです。

謹んで震災のお見舞いを申し上げます

このたびの東北関東大震災により、被害を受けられた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

ご家族や地域そして勤務校におかれましても、ご不安な状態が続いておられるかと存じますが、一日も早い復旧と皆様のご健康を心からお祈り申し上げます。

事務局より 総務理事(41S)坂本功

1. 理窓教育会事務局の移転

125周年で建設された新しい大学会館が3月末に完成し、理窓会施設が入居します。理窓教育会事務局は大学会館7階の理窓会事務室内に置かれます。

新住所

〒162-0825

東京都新宿区神楽坂2-6

PORTA 神楽坂7階 理窓会事務室内

ただし、理窓教育会事務局専属の事務員がいるわけではありませんので、ご連絡は郵送でお願いいたします。

なお、お急ぎの場合には、2の一般の連絡窓口にご連絡ください。

2. 一般の連絡窓口

教職課程指導室 坂本 功 (総務理事)

TEL 03-3260-4271 内線 2780

FAX 03-3260-1776

メール isoskmt@rs.kagu.tus.ac.jp

☆理大生がんばれ☆

例年、理窓教育会を挙げて取り組んできた「教員採用試験対策講座・合宿コース」が、直前に起こった東北関東大震災の影響によりやむなく中止になりました。4月から始まる「教員採用試験対策講座・直前コース」等で理窓教育会員の協力を得て精いっぱい指導をしていきたいと考えます。

学生諸君の特段の奮起を期待します!

平成22年度 教員採用試験合格者数

平成23年3月10日 現在

校種	公立						私立					公私 合計
	小学	中学校・高等学校			特別支援	合計	中学・高等学校				合計	
		数学	理科	他			数学	物理	化学	生物		
青森							1				1	1
岩手		2					2					2
福島							2				2	2
新潟		1	1				2					2
宮城			1				1					1
茨城		4					4	1	1		2	6
群馬		1					1					1
埼玉		5	1				6	2	1	1	4	10
千葉		11	8		1		20	3	1		4	24
東京		45	8				53	21	1	1	23	76
品川		2	1				3					3
横浜	1	2	2				5					5
川崎			2				2					2
神奈川		5					5	1			1	6
静岡		1					1	1			1	2
愛知		1					1					1
大阪								1			1	1
岐阜		1					1					1
福井		1					1					1
広島		1					1					1
香川		2					2					2
佐賀		1					1					1
沖縄		1					1					1
北九州		1					1					1
文科省		1					1					1
山梨		1					1					1
合計	1	90	24	0	1	116	31	5	3	0	39	155

22年度	1	90	24	0	1	116	31	5	3	0	39	155
21年度	0	89	18	1	1	109	39	8	1	0	48	157
20年度	0	48	21	1	3	73	23	4	1	0	28	101
19年度	4	49	15		3	71	14	2	2		18	89
18年度		28	6			34	24	4	4	3	35	69
17年度		34	7	1		42	16	2	2		20	62

昨年度までのデータは最終値、今年度のは現時点値である。